

花鳥風月・短歌

ヤマボウシが皐月の雨に傘さして

ゆらゆら揺れて気持ち良さそう

守谷肇

半年の穢れを祓ふ夏越祭

後期スタート背筋伸ばして

徳永誠一

もったいない西瓜割など出来やせぬ

頬ずりしながら育てしひとつ

兜虫ぶうんの羽音懐かしい

ふるさとのあの街灯の下

小田慶喜

夏瘦せはこの暑さでも難しい

溶け出さぬのか我が体脂肪

合歓の花咲き始めたる川沿ひに

歩めばすれ違ふ馬大頭

小田 和子

雉子が鳴きつばめは戻り子育てを

ふるさとの村やまぶきの咲く

いたみのない国へやつと来た妻は

ただすやすやとねているごとし

曾我部 福石

大皿に細切り野菜盛り合わせ

冷やし中華を御走する

小林 泰子

大正琴好きで始めて二十年

視力うしないなすすべもなし

最後まで記憶忘れず生きる事

願ってやまぬ我が命です

一色

ノブ

梅雨中ば晴天なりて嬉しさに

家中開けて陽と親しむ

塗塀

良子

富貴蘭真白き花が咲きほこり

甘い香りに心癒され

佐伯

定則

水都市黄色と緑ズッキーニ

ポン酢焼して夏バテ防止

石井

トシ子

最後まで我を忘れず生きられた

今夜の夢もたのしい夢に

一色

ノブ